



黄花鬼百合 画/植田由喜子

「本草図譜」に、黄花のおにゆり、として図と共に紹介されている。当社には二系統の黄花種を栽培し、この図は、瀬州系として栽培されている。漸く少し繁殖したので「入用の方は、ガーデニング担当までお問い合わせください。」 送料別

花かがみ

HANA-KAGAMI

発行人/小笠原 馨 発行所/名古屋園芸株式会社
〒466-0905 名古屋市中区東郷2-18-13 tel. 052-831-8701
http://nagoyaengei.co.jp/

195

名大屋園 監

ハーブを楽しむ暮らし



① アルストロメリアブーケ (クラシックピンク) ¥3,500 +税



② アルストロメリアアレンジ (ライトイエロー) ¥3,500 +税



③ アルストロメリアアレンジ (ナチュラルピンク) ¥3,500 +税

バースデーフラワー

～アルストロメリア～

新緑が眩しい季節になりました。気温も上がり開放的な気分になる5月にオススメのバースデーフラワーにアルストロメリアはいかがでしょう。
アルストロメリアは5〜7月にかけて花を咲かせ、花もちが良いことから切り花として楽しめることが多い球根植物です。インカ帝国が栄えたチリ原産であることから、「インカノユリ」とも呼ばれ、花弁に縞模様が入ったエキゾチックな見た目が特徴です。南米に60〜100程の野生種が分布し、1753年に南米を旅行中だったカール・フォン・リンネが種を採集したのがはじまりで、友人のスイエーデン男爵クラウス・アルストレーマーの名前にちなんで花名がつけられたと言われています。
その後オランダで盛んに品種改良が行われ、日本へは明治〜大正時代に輸入されました。近年は品種改良が進み、

暑さや寒さに強い日本の気候にあった品種も作られるようになってきました。そしてアルストロメリアの魅力、それは何といても花色が豊富なところにあります。色鮮やかなものからパステル調やシックな感じのものまで多種多色、中には縞模様がない「スポットレス」と呼ばれるものも出回るようになり、人気も高まっています。
また、1本で何輪もの花が付き、その特徴は小さなエリのような雰囲気、1本でもボリュームがあるのでブーケに華やかさをプラスしたり、小分けにしてアレンジに加えれば価格以上の見た目が期待できる点も魅力の一つといえます。
今月はアルストロメリアで華やかにコーディネートしたバースデーギフトはいかがでしょう。

こだわりの最高品質

片桐さんのアルストロメリア



④ アヤックス・トロピカーナ 花瓶いっぱいアルストロメリア。お部屋のアクセントになります。



⑤ エクストリーム 変わった花の形ののもの。お気に入りの品種を探すのも楽しいですね。



⑥ プレシャス・おぼろ月 優しい色合いが上品な印象を与えます。



⑦ エクスプロージョン 華やかな八重咲品種をトケインソウと一緒に。賢的な雰囲気です。

鮮やかな色とりどりの花弁が人気のアルストロメリアですが、名古屋園芸が特にオススメしたいのは、信州・片桐花井園さんの生産するアルストロメリアです。30年ほど前に片桐さんのお父様が千葉県の三宅花井園さん、小森谷ナリセーさんのハウスを訪れた際にアルストロメリアと出会い、信州上伊那で栽培を始めた。そして現在まで、様々な試行錯誤を重ねたこだわりのアルストロメリアを生産されています。
片桐さんは日本人の好みに合いそうなものを厳選して、オランダから苗を輸入しています。オリジナル品種の育成にも力を入れており、その中には和風のアルストロメリアなんでもあり

るのです。洋風で大きな花が派手なイメージもあるアルストロメリアですが、片桐さんの育てるアルストロメリアは小輪系で、上品で繊細な雰囲気のものが多いです。
そんな魅力たっぷりの片桐さんのアルストロメリアを、名古屋園芸では仕入れスタッフが直接農園へ何回も仕入れていきます。花束やアレンジメントに加えるのももちろんですが、花瓶にいくつかのアルストロメリアを飾れば華やかです。リキユウソウなどのグリーンと合わせれば落ち着いた雰囲気を楽しめます。初夏の訪れを片桐さんのアルストロメリアと一緒に味わってみてはいかがでしょうか。

information

観葉シーズン到来中



本格的に暖かくなり、本文の中でご紹介した以外にも沢山の観葉植物が随時入荷しております。

5、6月は観葉植物の出回りが充実してくるだけでなく、植え替えにも最適なシーズン。気に入った植物に出会ったら、お洒落な鉢に植え替える事で植物の美しさがより引き立ち、インテリアとしてもグレードアップします。

当店でご購入の植物につきましては手数料を頂戴して植え替えさせていただきますし、ご自分でやってみようという方にはアドバイスをさせていただきます。どうぞお気軽にご相談ください。



花の博物館 第280回

皐月

一陽斎豊国(三代) 弘化四年(一八四七) 東屋市兵衛版 小笠原左衛門尉亮軒

園芸教室の講師としてお話をさせていただくと、良くツツジとサツキはどのように見分ける？ 或はどこのツツジ？ などの質問を受ける。この場合、ツツジとしてイメージしておられるのは、ソメイヨシノより少し遅れて咲く「平戸ツツジ」であろう。品種「大葉」に代表される枝変わりから出現した、桃、白、など晩春を彩る。また、東山植物園の元山に自生する葉の花が樹皮一面に咲かせるのは「三葉ツツジ」である、と説明し、サツキは「サツキツツジ」と呼ぶのが正しい呼名。そして、サツキ (Rosaodora indica) と、マルバサツキ (Ranunculaceae) の二種は自然交配によって成立した園芸植物群を指します。すでに元禄五年に、霧島屋伊兵衛著「蘭語枕」五冊の内、四、五の二巻はサツキの類として百五十拾余種の品種記載がある。
本作品「皐月」はサツキの特徴の一つ、覆輪咲、や、無地咲、が一株に咲けているのを表現していることに注目したい。